



道西日本海(奥尻島以南) スケトウダラ資源調査結果

道総研

2024年10月31日

北海道立総合研究機構 函館水産試験場 (0138-83-2893)

○2024年10月16日～26日に、試験調査船金星丸を用いてスケトウダラを対象にした計量魚探調査、トロール調査、CTDによる環境調査を実施したので、結果をお知らせします（図1）。調査結果は下記の函館水試ホームページからもご覧になれます。

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>

- スケトウダラ魚群は、奥尻海峡を中心に沖合まで広範囲に分布した。
- 檜山以南(奥尻～松前沖)における魚探反応量は、前年の1.5倍であった。
- 魚体の大きさは尾叉長40～45cm台が主体で、30～35cm台も漁獲された
- 漁場周辺の水温は、スケトウダラが分布する水深300m以深はほぼ平年並であったが、水深50～200mでは平年を1～5℃下回っていた。

● スケトウダラ魚群の水平分布と鉛直分布

- ・水平分布（図2）：スケトウダラは奥尻海峡周辺に多く分布していた他、沖合にかけて広く分布していた。スケトウダラ漁場が形成される沿岸域では、乙部～久遠沖にまとまった分布が見られた。
- ・鉛直分布（図3）：スケトウダラ魚群は、主に水深300～500mに分布が見られた。

● 計量魚探によるスケトウダラ魚群の魚探反応量

計量魚探調査から推定されたスケトウダラ魚群の魚探反応量は、檜山以南（奥尻～松前沖）では前年比1.5倍となった（図4）。海域別に見ると、例年魚群のみられる奥尻海峡周辺では前年比1.2倍、奥尻海脚では前年比1.3倍、松前小島周辺は前年比1.0倍と全体の増加に比べて緩やかであった一方、沖合の中層における反応量が前年から大きく増加した（図2）。

● トロール調査で漁獲したスケトウダラの大きさ

奥尻海峡、相沼沖、奥尻海脚でトロール調査を実施した。このうち十分な標本が採集された相沼沖では尾叉長40～45cm台が主体、奥尻海脚では40～45cm台に加えて34cm台にもピークが見られた（図5左側）。また、相沼沖および奥尻海脚では30cm未満の未成魚や、10cm前後の0歳魚もわずかに採集された。

● 水温環境

スケトウダラ漁場周辺の乙部沖、江差沖、上ノ国南沖で水温の観測を実施した（図6）。各調査点ともスケトウダラが分布する300m層の水温は平年並～やや低い程度であったが、水深50～200mの水温は平年を1～5℃下回っていた（乙部沖水深50m；平年差-5.6℃）。なお、[10月の定期海洋観測](#)では対馬暖流の流量は平年並であったものの、岸沿いの北上流が観測されなかった。

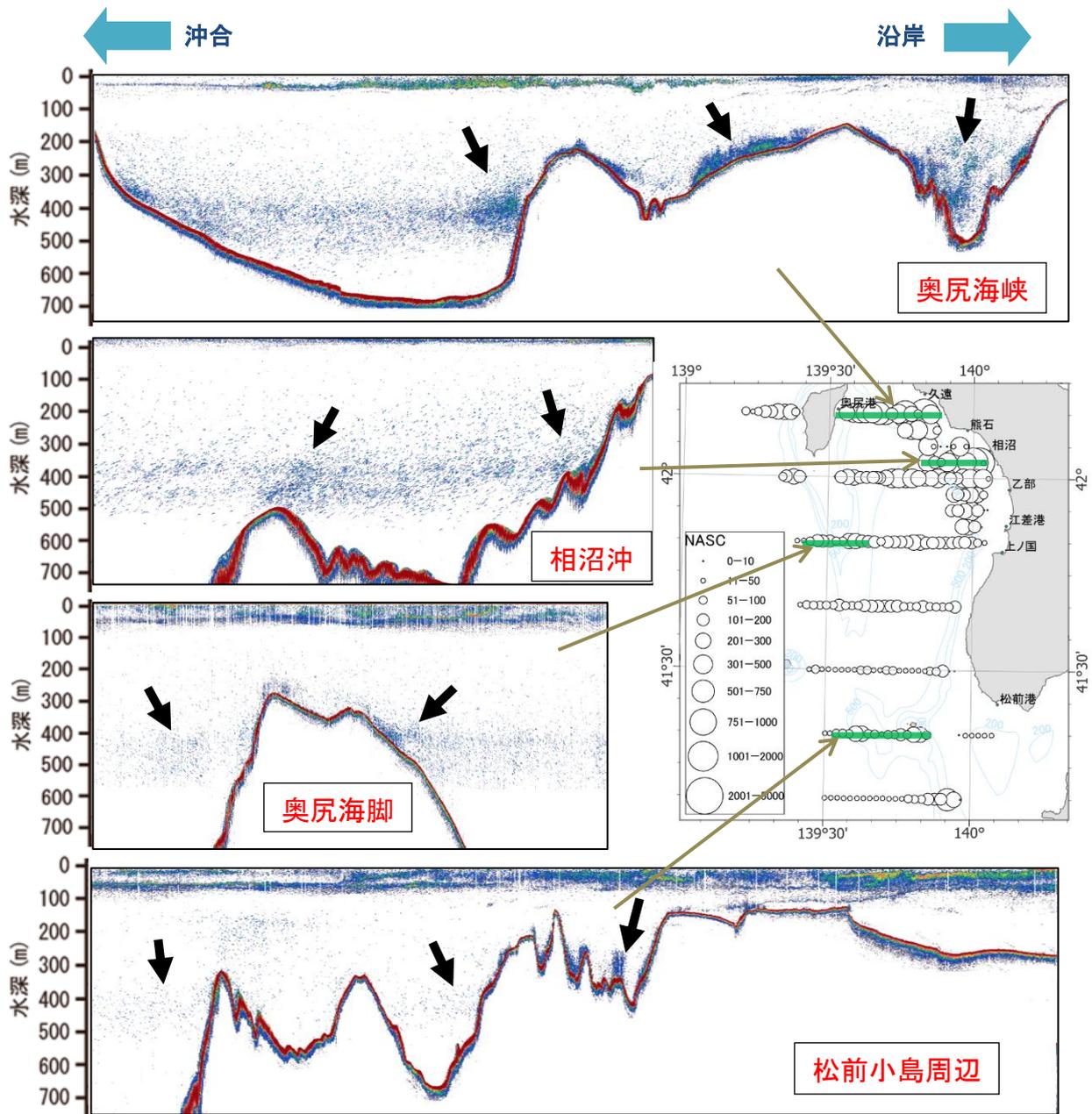


図3 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布(夜間に調査を実施) (2024年10月)
 ※矢印はスケトウダラと考えられる反応、水深100m以浅はイワシ類とみられる反応

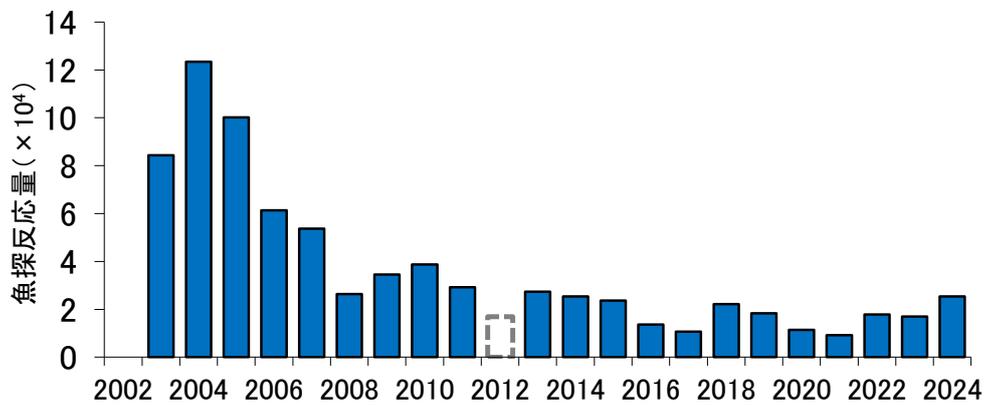


図4 計量魚探調査によるスケトウダラ魚探反応量の推移

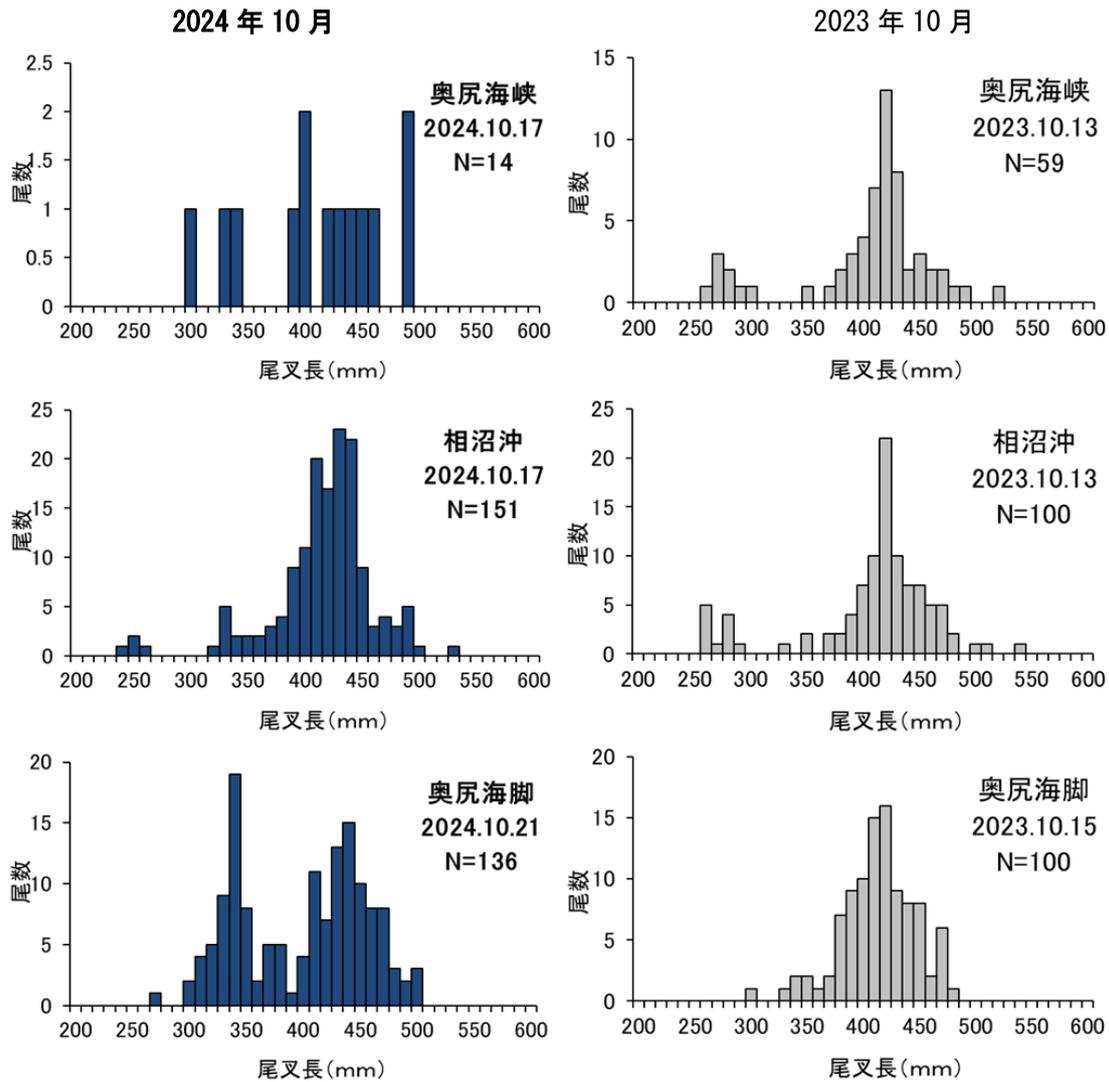


図5 着底トロールで漁獲したスケトウダラの尾叉長組成 (左: 2024年, 右: 2023年)

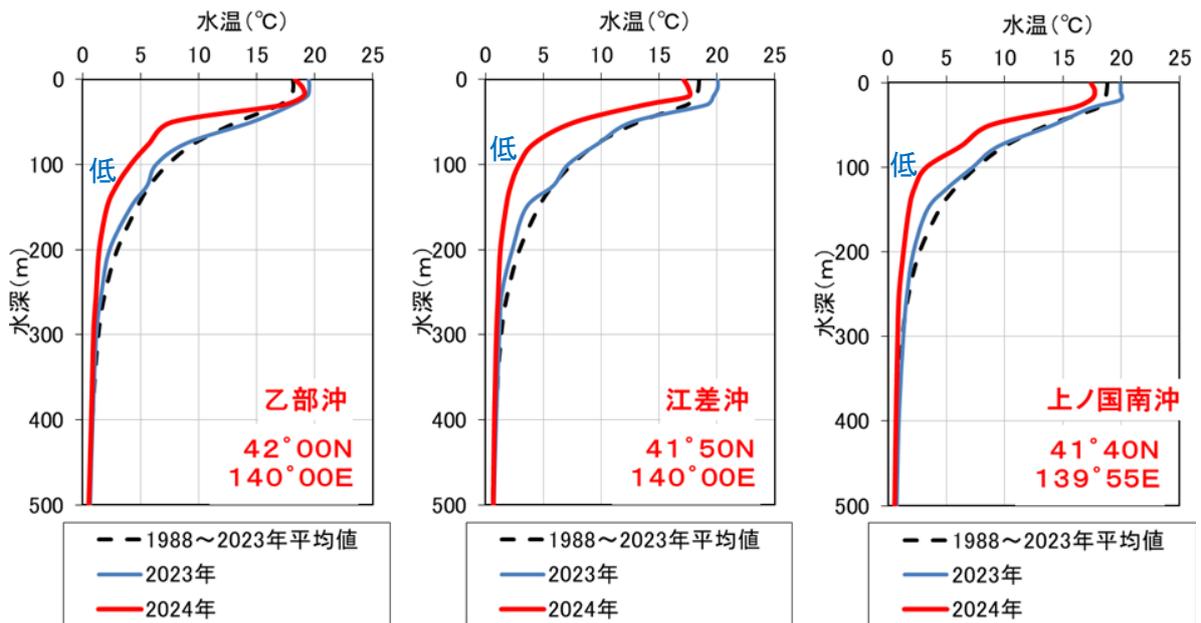


図6 スケトウダラ漁場周辺 (図1) の鉛直水温分布 (10月中旬)